派遣研究者：柳　静我

相手先機関：上海師範大学

専 門 分 野 ：辺境運動と都市化（江西省）

テ　ー　マ 「伝統中国の都市を中心とする地域社会の比較史的研究」

月度報告書（2012 年 4 月－2013 年 2 月）

2012 年 4 月度研究活動報告書 1

2012 年 5 月研究活動報告書 2

2012 年 6 月研究活動報告書 3

2012 年 7 月研究活動報告書 4

2012 年 8 月研究活動報告書 5

2012 年 9 月研究活動報告書 6

2012 年 10 月研究活動報告書 7

2012 年 11 月研究活動報告書 8

2012 年 12 月研究活動報告書 9

2013 年 1 月研究活動報告書 10

2013 年 2 月研究活動報告書 11

2012年4月度研究活動報告書

柳静我

4月は、上海図書館に毎日通い、史料調査を行いました。

研究課題が中国の西北辺境地域の都市化問題であるため、上海図書館に所蔵されている四川省の東の辺境にある打箭炉という城市に関する古籍文献を調べました。清代、打箭炉は漢族とチベット族が雑居する辺境都市で、四川省雅州府の知府及び明正土司、そして税関を監督する清朝中央とチベットから派遣された監督官が駐在する重層的な管理体制を持つ地域であることが分かりました。そこで上海図書館の古籍文献を調べ、関連する『打箭炉志』『打箭庁志』という史料を見つけ、複写が禁止となっているため、その内容をパソコンに打ち込む作業を行いました。一方、日本では関連する先行研究が少ないため、中国での先行研究を調べ、関連する論文と書籍を複写し、その内容の分析を行いました。

上海図書館は古籍文献の複写は難しいが、『四川通史』などの史料は一般閲覧室で貸出が自由となっており、その複写と閲覧には殆ど問題はありません。

それから、上海師範大学においては、受け入れ先生でいらっしゃる銭杭先生のゼミに参加させて頂いています。ゼミは明清時代の宗族と都市に関する内容で関連文献及び中国での研究方法を教えて頂いています。銭杭先生は私の研究課題と関連する中国の研究者の方をご紹介して下さると仰いましたので、楽しみです。

2012 年 5 月研究活動報告書

柳静我

5 月も 4 月に引き続き、上海図書館で『打箭炉志』『打箭庁志』などの資料の写しを行い、その作業は 5 月末でほぼ完了しました。二つの史料は、清代中期と末期における打箭炉という辺境都市の在り方を知る上で基本となる史料であります。それから『四川通史』の中で打箭炉と関連した内容を複写しました。それと同時に、これらの史料の内容の解釈を行いまして、打箭炉という都市の輪郭はほぼ解明できたと思います。

それから、引き続き、受け入れ先生の銭杭先生のゼミにも参加し、課題の本などを読みました。6 月には中国語でゼミの中で挙げられたテキストを読み、その内容の比較、日本などにおける宗族研究について報告を予定でおります。

6 月からは具体的な案件を調べ、清朝の政策と打箭炉という都市の変容などを分析していく必要があると思います。そのためには、档案などの史料を調査する必要があり、上海の歴史档案館にも行き、関連する档案の現存状況を調べようと思います。

2012 年 6 月研究活動報告書

柳静我

6 月には、上海図書館で研究テーマに関連する資料及び先行研究の調査を続けて行う一方、上海の档案館でも史料調査を行いました。

そして、上海師範大学の銭杭先生のゼミにおいて宗族研究及び都市史研究に関する日本の先行研究及び研究方法について中国語で発表を行いました。私の発表を最後に銭杭先生の今学期のゼミは終わりましたが、毎回行う院生たちの発表と銭杭先生のコメントを通して、中国での研究成果、研究方法及びその問題点について勉強できる貴重な機会を得ることができました。

今後、北京、南京、四川などの档案館に赴き、引き続き、档案史料の調査を行う予定でおります。

2012 年 7 月研究活動報告書

柳静我

7 月は、引き続き上海で史料調査を行う一方、6 月まで収集した資料の整理及び日本語への翻訳作業を行いました。そして、北京に行き、第一歴史档案館で研究テーマに関連する档案史料について調査を行いました。今回は清朝中央から派遣されて打箭炉の税関を監督していた官吏らの報告で満州語の史料の有無を調査しました。北京の档案館における史料調査は、次回再び漢文史料を中心に行う予定であります。

2012 年 8 月研究活動報告書

柳静我

8 月も引き続き、上海での史料調査を行いました。以前から通っていた上海図書館、上海市档案館のほかに、今月ははじめて復旦大学歴史地理研究センターで史料調査を行いました。復旦大学歴史地理研究センターは 1957 年歴史地理研究室から出発し、1999 年研究センターへと発展したものであります。

この研究センターは歴史地理の基礎研究を行いながら、中国国家重点科研のテーマの研究及び修士・博士課程の学生も指導するなど、中国国内において優れた研究センターとして知られています。今回の史料調査では、当研究センターの関連資料を調べると同時に、専門分野の近い先生との交流もできるなど、大変有益な時間となりました。

2012 年 9 月研究活動報告書

柳静我

9 月には新学期が始まり、前学期に引き続き、受け入れ先生でいらっしゃる銭杭先生のゼミに参加させて頂くこととなりました。今学期のゼミでは、人類学の手法を用いて現地調査を行うことを中心に講義が行われています。

そして、新しく復旦大学の歴史地理研究センターの斉光先生のゼミにも参加させて頂くこととなりました。先生のゼミは満洲語及び文献講読に関するものですが、斉光先生から打箭炉に関する満洲語の資料を紹介して頂き、大変参考になりました。その資料には、漢文資料では見当たらない清朝中央政府による打箭炉の管理体制が如何に確立されていたのか、その政治過程に関する内容が含まれており、清代の辺境都市史研究における満洲語資料の重要性を予め確認しました。

10 月には北京の第一歴史档案館で再び漢文・満文資料に関する調査を行う予定です。

2012 年 10 月研究活動報告書

柳静我

10 月には、前半は上海で研究活動を行い、後半の 21 日から 31 日までは北京の第一歴史档案館において資料調査を行いました。今回档案館では、主に宮中硃批奏摺及び軍機処上諭档の中で研究課題に関連する資料を閲覧しました。これらの資料はパソコンの中に整理されており、制限が厳しい満洲語の資料に比べると、調査しやすい点はありました。ところが、関連する文書が 120 件以上あり、コピーは 40 件までとの原則を档案館の方から言われ、全体の資料の半数以上を手書きで写さなければならず、結構時間がかかる作業となりました。でも 40 件はコピーできたので大変助かりました。

これらの資料は、四川当局及び打箭炉同知、打箭炉関税監督による奏摺とそれに対する皇帝の硃批となっており、大きくその内容を分類しますと、打箭炉及びその周辺地域の災害に対する対応、打箭炉同知人事に関するもの、打箭炉の治安管理体制、辺境防衛における打箭炉の役割、関税管理に関するものとなっています。更に内容の整理と分析を行う必要があると思います。

これからは、上海で収集してきた資料とも合わせて分析及び整理を行い、本格的に研究課題の作成に取り組む予定であります。

2012 年 11 月研究活動報告書

柳静我

11 月は上海で上海師範大学及び復旦大学のゼミに参加させて頂く一方、上海図書館で引き続き史料調査を行いました。今度の調査では、新しく『西康図経』『西康紀要』という史料を入手することができました。

一方、10 月には、北京の第一歴史档案館で史料調査を行い、宮中硃批奏摺及び軍機処上諭檔等で史料を集めて来ましたが、11 月には、これらの史料の解読及び分析を行いました。主に漢文の史料であり、その内容とは中央政府の政策に関するもので、特に地方官の任命及び関税問題に関する内容が多く、中央政府の関心がそこにあったことが伺えます。

12 月末から 1 月にかけて、北京図書館及び北京大学の図書館などで史料調査を行う予定であります。今度の調査では、中央の政策が現地でどのように実行されていたのか、その具体的な実態が解明できる史料が少しでも入手できればと思い、期待しています。

2012 年 12 月研究活動報告書

柳静我

12 月の前半は上海図書館で引き続き史料調査を行い、後半は北京大学の図書館で史料調査を行いました。北京大学の周辺の本屋は何回も行ったことがありますが、図書館の利用は今回がはじめてです。今までの北京での史料調査は主に第一歴史档案館でした。

北京大学の図書館を利用する際、外国人の場合は、紹介状とパスポートが必要になります。私は事前に紹介状を用意していませんでしたが、北京大学の郭润涛先生が紹介状を書いて下さったため、大変助かりました。郭先生とは、東洋文庫で訪問研究員をなさった時、お知り合いとなり、それから三年ぶりの再会となりました。とても嬉しかったのです。初日は、先生が図書館の案内までして下さり、この場をお借りして改めてお礼を申し上げる次第であります。

上海図書館では複写禁止となっていたため、手書きで部分的に転写していた史料が、北京大学の図書館では、貸出ができ、なおかつ複写及び製本までできましたので、大変感動しました。

図書館で史料調査を行う時、昼ご飯を食べた後、居眠り防止のため、散歩をかねて北京大学の周辺にある書店巡りをしました。中国の書店では、期待していなかった放り出しの宝物の本或いは史料集を発見する場合があり、その時の喜びは大きいものです。今回も何回かそのような喜びを味わうことができましてとても感激しました。

2013 年 1 月研究活動報告書

柳静我

12 月に引き続き、1 月中旬まで北京大学で史料調査を行いました。知り合いの北京大学の学生から北京大学の図書館のなか、古籍史料の検索システムを利用することができ、とても便利であるとの話を聞き、早速試してみました。たぶん、他の大学でも同じシステムは利用されていると思いますが、北京大学の場合は、検索が可能な史料の数が一番多いとのことです。実際、使用してみると、本当に驚くほど、多くの一次史料から私が入力した地域名と関連する部分が検索され、その内容を一つ一つ確認しながら、必要な部分をコピーできるという優れものでした。それを利用して 20 種類以上の史料（たぶん、一つずつ読みながらやっていたら、何か月はかかっているはず）から必要な内容をコピーして整理することができ、本当に楽しい史料調査となりました。

更に、地方志の検索システムも紹介してもらい、試してみたのですが、関連する史料が少なく、ここでは大きい収穫はありませんでした。

一方、この時期、北京の最大の関心事は大気汚染の問題です。私も実際北京で経験することとなりました。歩いている時、霧の中を歩く感じで、窓から外を見ると町全体が曇りに包まれているような風景でした。領土問題ではいつも熱く語る社会科学院の研究者は、食事の際、日本は本当に空気がきれいでいいよね、と羨んでいました。

12 月末から一月中旬まで北京大学での史料調査はとても刺激的で有益なものでした。今回の史料調査は、私がいつも通っていた第一歴史档案館とは違う環境でして、私が以前抱いていた北京での史料調査はいつも大変で面倒なものであるという印象を払拭してくれるものでした。

2013 年 2 月研究活動報告書

柳静我

2 月は、今まで収集した史料の整理及び分析を行いました。そこで、「锅庄」という大変興味深いものを発見しました。打箭炉で漢人商人とチベット人商人が取引を行う際、重要な役割を果たしたのが「锅庄」であった。打箭炉で取引される主な品物は茶であった。四川省の西部で栽培される茶葉は、打箭炉で取引が行われ、大部分がチベットの中央へと流れ、消費されていたのである。「锅庄」は、本来、打箭炉の実質的な支配者である明正土司から分封された頭目らが、其々の支配地域を持ちながら、明正土司の首府がある打箭炉に全権特使を派遣し、駐在させた公所であった。清代に入り、打箭炉での貿易が盛んになると、チベットの各地から来る商人（官商・僧商）らが、打箭炉で宿泊したり、売買する貨物を保管させたりする建物・場所へとその性格を変えていたのである。打箭炉で漢人とチベット人が取引する際、「锅庄」はその通訳も担当した。それから、漢人商人とチベット人の商人との売買では、後払い決算が多く、「锅庄」はそれを保証する役割も果たすとともに、取引の紛争の仲裁も行った。

つまり、「锅庄」は、打箭炉の辺境都市としての特徴を検討する上で欠かせない存在であり、今後、彼らを媒介とする漢人とチベット人の取引の具体的な実態を更に検討する余地が大いにあると思う。